

第11回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成24年10月25日(木) 10時～12時

場所 かながわ県民センター コミュニティカレッジ講義室1

出席者 委員6名(欠席:磯田委員)

(特非) ヴォース・ニッポン、(特非) 産業クラスター研究会、(特非) 神奈川子ども未来ファンド、(特非) 神奈川被害者支援センター、(特非) さなぎ達、(特非) スマイルオブキッズ、(特非) 多言語社会リソースかながわ、(特非) 地球の木、(特非) 市民セクターよこはま、(特非) 市民ファンドゆめの芽、(特非) ぐらすかわさき、(特非) 地球学校、(特非) ホタルのふるさと瀬上沢基金、(特非) 藤沢市市民活動推進連絡会、(特非) 黄金町エリアマネジメントセンター、(特非) かながわ福祉移動サービスネットワーク、(特非) あっとほーむ、(特非) 湘南ふじさわシニアネット、(特非) 横浜コミュニティデザイン・ラボ、NPO法人グループ職員

1 開会

2 協議

認定NPO法人・県指定NPO法人の情報交換について

(1) 趣旨説明

昨年度から、寄付をすすめる委員会を設置して、社会に貢献する活動に対する県民の興味・関心を喚起し、NPOに対する支援や参加を促すための取組みを推進するため、新しい公共支援事業のなかで寄付促進のためのキャンペーンなどを実施している。こうしたなかで、認定NPO法人、指定NPO法人の皆さんにもお集まりいただき、寄付集めについてお互いに情報交換するとともに、一緒に何かできないかを検討するため、この会を開催することとした。(委員長)

(2) 自己紹介

委員及び各団体の自己紹介を行った。

(3) 意見交換

○委員長及び委員から、かながわチャリティーアクションキャンペーンの概要、カエルのチラシの作成趣旨と配布状況、ありがとうソングコンテストの開催とPRの場の提供、冬季キャンペーンの概要について説明を行った。

○意見交換したい項目を募り、次の6つの項目についての意見交換を行った。

ア 領収書の発行について

- ・ 寄付会員と理事は別の領収書を発行している。国税庁認定法人という表記を入れて、法人名、住所、日付、寄付金額を記載している。通し番号をふっている。
- ・ 同様の項目を、印刷業者に依頼して作成している。
- ・ 通常の領収書とは別に、内訳の入っている確定申告用の領収書を1月に一括して送付している。
- ・ 寄付者にメールを送っており、寄付金控除の領収書はいつ発行になるかを伝えている。

イ オンライン寄付について

- ・ クレジットによる寄付の受付をしているところは2～3団体。（18団体中）
- ・ クレジットの決済は審査などがあり、難しい。専門のサイト（JustGiving等）を利用することで、オンライン寄付は可能だ。JustGivingは各団体に領収書の発行をお願いしているようだ。（委員長）

ウ 寄付者名簿の整理について

- ・ セールスフォースというソフトは、企業向けのソフトだが、NPO法人には無償で提供している。MSダイナミックスというマイクロソフトのソフトもある。アクセスは扱いが少し大変。ファイルメーカーというソフトもある。（委員長）
- ・ アクセスは1法人が使用。
- ・ エクセルは4法人が使用。

エ 税額控除の案内について

- ・ 領収書を発行するとき、一緒に案内を同封している場合や、HPに案内を掲載している場合があるようだ。（委員長）

オ 寄付担当者を置いているかについて

- ・ 事務処理は、スタッフみんなができるように訓練している。ただ、複雑な手続きについては、担当者何人かで事務に当たっている。
- ・ 寄付集めの方は、ファンドレイジング部会を設けており、会計事務の方はデータ管理等を行う担当を置いている。
- ・ 会計の人におまかせしている。
- ・ 寄付者の履歴を管理して、繰り返し寄付のお願いをするといったこともやったほうがいいのか。
- ・ 寄付してくれたら、2回お礼を言って、3回目には、寄付がほしいということをしちんと言うことが大切だと、アメリカのファンドレイザーに聞いたことがある。（委員）

カ 指定・認定NPO制度について

- ・ 県で指定をとって、横浜市で認定の申請をしているが、県内全部の市町村で指定の申請をするとなると、膨大な書類と手間がかかることになるがそれは仕方ないのか。
- ・ 県指定をとった後は、まず認定をとっていただくのがよい。認定をとっていれば、各市町村では、比較的容易に指定が受けられる。ただし、市町村によっては、当該市町村に事務所があることを要件にしている場合がある。その場合は、個別条例で指定を受ける必要が生じるので、その市町村の新たな指定制度で手続きをしてもらうことになる。（NPO法人グループ職員）

○ こういう方法で寄付集めをしているといった事例の紹介及び、一緒にこういうことをやりたいというアイデアについての意見交換を行った。

- ・ 「カエルのチラシを見たことがあるか？」という委員長からの問いに対しては7割程度の団体が見たことがあると挙手。
- ・ 「これは自分たちのために作られたチラシだと認識していたか？」という問いに対しては、3～4団体程度が挙手。

- ・カエルのチラシを初めて見たが、団体名が印字できるスペースがほしい。
- ・「かなチャリ」に、神奈川県内のすべての認定・指定NPO法人を掲載して、各団体のHPにリンクしてもらえるとよい。
- ・こうした団体の紹介や寄付を呼び掛けるための統一したHPが必要だ。「かなチャリ」にもぜひそういうページを作ってほしいと以前から提案しているが、難しいようだ。ソコカナも、自分の団体のHPにFMヨコハマで取り上げたNPOを紹介するページを作った。（委員）
- ・今、「かなチャリ」の改修にとりかかっている。対象団体が決まっているので、団体名とリンク先を入れるということは、再来週ぐらいまでにはできると思う。
- ・活動を知ってもらってアクセスしたら、こうしたら寄付ができるんだというのを見せていかないとアクションにつながらない。この機会に合わせて、自分たちのHPに、寄付を受け付けていることを見せたほうがいい。（委員）
- ・具体的なプロジェクトが明らかになっていると寄付がしやすくなる。
- ・企業とNPOのパートナーシップミーティングというものがあるようだが、県には寄付をしたいという企業を拾い上げてほしい。
- ・つつい我々NPOは、企業というと寄付をくれとせがんでしまうが、企業とNPOのパートナーシップミーティングは、そういう場ではない。企業の持っている資源と、NPOの資源をつなぐ場なので、誤解をしないでほしい。お互いが、win-winになることを目指している。（委員）
- ・寄付という中には、現金だけでなく、家をあげるよという動きもある。家や土地というものは、お金と違って、動かすときに法律によらないといけないので、そういったやり方の紹介や、専門家の紹介があったらいい。
- ・例えば、カエルのチラシの裏面に、認定・指定NPO法人の一覧を入れるとか、HPで掲載するとかはどうだろうか。
- ・認定・指定NPO法人を掲載した、「寄付先としておすすめするブック」というのを作ったらどうだろうか。（委員長）
- ・具体的に、こういう団体がありますというのを、団体名だけではなくて連絡先や概要とかを掲載して作成したらいいのでは。（委員）
- ・どうしても分野が違くと、関係がないとなってしまうがちだが、お互いに紹介をしあうというのはどうだろうか？
- ・それぞれの団体は伝わる資源を十分お持ちのはずなので、それを活かしてほしい。（委員）
- ・委員の皆さんの話を聞いていると、我々が一つになってPRをしたらどうかと言っているように聞こえるが。
- ・そうした共同でのPRは必要なかどうか？（委員長）
- ・必要、賛同する、認定・指定法人ガイドブックはあったらよいという意見多数。
- ・素人ばかりで、どういう言葉を使えばいいのかわからないし、どういう絵を使えばいいのかわからない。
- ・日本はアメリカやイギリスと比べて寄付の意識が低く、1万枚ぐらいチラシは刷るが、効果はみえない。

- みんなでやれよと言われても、日頃の活動が忙しいので難しい。どなたかが、やってもらえると助かる。
- 空中戦とは別に接近戦をやったほうがいいのでは。（委員長）
- こういったキャンペーンは何年かに1回しかできない。（委員）
- 寄付したいが、どこに寄付していいかわからないといったことがあるはず。
- いただいた寄付がこうなりますよという具体的なイメージを伝えることが大切だ。
- 認定NPO法人・指定NPO法人をまとめて紹介するものを作成することについては、賛同する意見が多かったので、検討したいと思う。勉強会も必要かと思うので、次回は勉強会を開催できたらと思う。（委員長）

3 閉会